

Roswell Park Comprehensive Cancer Center 留学記

岐阜大学大学院 腫瘍制御学講座 腫瘍外科

徳丸剛久

(1) はじめに

はじめまして、乳腺外科を専攻する岐阜大学腫瘍外科の徳丸剛久といたします。私は 2010 年に（主任：吉田和弘教授）に入局し、6 年間臨床に携わったのち外科専門医の資格を取得しました。その後、2016 年 4 月に岐阜大学大学院に入学し、乳癌にかかわる研究をしていました。その縁もあり、2019 年 4 月より 2 年間、ニューヨーク州バッファロー市にある Roswell Park Comprehensive Cancer Center の乳腺外科学講座の高部和明教授の研究室で研究留学をしましたので、そこで私が感じたことや学んだことを紹介させていただきます。

(2) 海外留学への憧れ

突然ですが、皆さんには夢や将来こういう医師になりたいという目標がありますか？私には、夢というと大袈裟にはなりますが、医学生の間から海外留学に対する憧れがありました。これは私が中学・高校の 6 年間、親の仕事の都合により米国で過ごしたことが影響していると思います。当時は突然の海外への転校で、全く英語が話せないまま現地の中学へ入学し、多くの障壁や文化の違いを感じました。しかしサッカーや陸上などのスポーツを通し、挑戦する機会や刺激し合う仲間を得て充実した生活を送ることができ、自分の成長過程に大きな影響を与えた 6 年間でした。高校卒業時、親は米国で仕事を継続していたため米国での大学進学も考えましたが、日本に基盤を置きたいと思い、悩んだ末、私のみ帰国し予備校で受験勉強を行い、富山医科薬科大学(現 富山大学)医学部に進学しました。大学在学中はラグビー部に所属し、実り多い生活を送ることができました。一方でいつか米国もしくは海外で働きたいという思いが常に頭の片隅にありました。幸いなことに 2019 年 4 月から 2021 年 3 月までニューヨーク州バッファロー市にある Roswell Park Comprehensive Cancer Center へ研究留学の機会を頂きました。

(3) 海外留学を通じて感じたこと学んだこと

バッファロー市と聞いてもピンとくる方は少ないと思いますので、バッファロー市について少し紹介させていただきます。「ニューヨーク」と聞くと華やかなイメージを持つかもしれませんが、バッファロー市は、ニューヨーク州で 2 番目に人口が多い都市にも関わらず、人口約 25 万人の小さな町です。観光名所であるナイアガラの滝や国立公園などが近くにあり、自然豊かな居心地の良いところでした（写真 1）。Roswell Park Comprehensive Cancer Center は全米最古の癌センターで、大腸がんの 5-FU やロイコボリンの治療開発に貢献し、前立腺癌腫瘍マーカーの PSA の発見にも多大な貢献をしています。



写真1 ナイアガラの滝



写真2 自宅での家族写真

自分自身が家庭を持ち、社会人として米国で過ごすのは初めてで、学生時代に米国で過ごしていた頃とは違う部分に目を向けたり、気がついたりすることができました（写真2）。生活面で、一番印象的であったのは、コロナ感染拡大時の対応でした。コロナ感染が猛烈な勢いで拡大していた時にニューヨーク州知事のクオモ知事がバッファロー市のロックダウンを夕方決定しました。すると翌日には、職場はリモートワークへ移行し、子供が通っていた学校も Zoom を利用したオンライン授業に移行しました。職場では必要なミーティングをオンラインで行い、とくに研究面で滞ることはありませんでした。学校に関しても、ロックダウン決定後数時間のうちに学級内メールで自宅でのインターネットの接続状況の確認を行い、もしインターネットを接続できるパソコンなどがなければ支給するという対応がとられ、翌日よりほぼ問題なくオンライン授業を行うことができました。このように、一度決定したことに対して、行政や市町村全体でスピード感をもって突き進んでいく対応には、大変驚くと同時に感銘を受けました。その他には、日本人の丁寧で細やかな気配りが含まれた接客・サービス、充実した社会保障制度は、日本の誇れる文化・制度だと感じました。これは、異国の地で生活したからこそ感じる点だと思えます。日本と米国の文化には各々良い点があり、両方を経験できたことは幸せなことだと感じています。

仕事の面で感じたのは、役職や経験年数に関わらず自分の意見をいうという姿勢です。この留学で、Roswell Park Comprehensive Cancer Center のフェロー（日本で言うと、卒後6～7年目の医師）や医学生と共同作業で論文執筆をする機会がありました。論文執筆の過程でディスカッションを何度も行いましたが、そこでは、調べた事実に基づいて自分の意見を述べるのが重要です。教授など目上の人に対しても「私が調べた結果では、こうであったので、私の意見は、先生の意見とは違います」などと主張すべきところはしっかりとする姿勢には、驚きましたし学ぶところがあると感じました。また、医学生でも「First author として論文を書きたい」と発言する向上心の高さには感服しました。他の研究室との共同研究の際に自分の研究を発表する機会もありました。そこでは、自分の研究を理解してもらい興味を持ってもらうために、シンプルかつ印象的に伝えるプレゼンテーションのコツを学びました。

(3) 海外生活・留学を終えて

今後は今回の留学で学んだことを臨床の現場で役立てつつ、乳腺外科医としての経験を積んでいきたいと思います。また同じように海外留学を考えている後輩の力になればと思いますので、質問などあれば yt1090@gifu-u.ac.jp までご連絡ください。どんな些細なことでも良いので気軽にお声かけください。

最後にこれまでご指導いただきました多くの先生方に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。